

介護老人福祉施設 足原のぞみ苑
足原のぞみ苑ユニット
短期入所生活介護

平成 30 年度事業報告

1. 概況報告

<足原のぞみ苑>

ア) 利用者の状況

① 入所者数 80名 (男性 14名、女性 60名)

(内) 要介護1 4名
要介護2 4名
要介護3 15名
要介護4 20名
要介護5 20名

② 平均介護度

平均介護度 3.7

③ 平成30年度ベッド稼働率

- ・ 95.1%で今年度目標の95%はクリア
- ・ 平成29年度ベッド稼働率95.6%から平成30年度95.1%
- ・ 昨年度よりベッド稼働率が低下した要因としては、長期間の入院者が多かった点である。早期発見早期退院に努めているが、家族の意向でのぞみ苑に戻れる状況ではないが、とりあえずベッドは確保してほしいという考えの方がいた。対応策として新規入所時に入所在籍の説明をきちんと説明し理解を得ることに重点をおくようにする。

④ 入所待機者

- ・ 入所待機者は80名 (H30.12~H31.5)

<足原のぞみ苑ユニット>

ア) 利用者の状況

① 入所者数 20名 (男性 1名、女性 19名)

(内) 要介護1 3名
要介護2 2名

要介護3	7名
要介護4	4名
要介護5	4名

② 平成30年度平均介護度
平均介護度 3.1

③ 平成30年度ベッド稼働率

- ・ 97.2%で今年度目標の95%はクリア
- ・ 平成29年度ベッド稼働率99.5%から平成30年度97.2%
- ・ 昨年度よりベッド稼働率が低下した要因としては、転倒骨折での長期間の入院者がいたことだった。個室のために部屋の中でのリスク管理を見直していく。

④ 入所待機者

- ・ 入所待機者は17名（H30.12～H31.5）

<足原のぞみ苑短期入所生活介護>

ア) 利用者の状況

① 利用人数 485名（前年度430名）

② 平成30年度ベッド稼働率

- ・ 72.2%で今年度目標の70%はクリア
- ・ 平成29年度ベッド稼働率69.7%から平成30年度72.2%
- ・ 昨年度よりベッド稼働率が上昇した要因としては、長期間の入居者が多かった点と、送迎時間と送迎範囲の幅を持たせたことである。また、緊急時の入所の受け入れと認知症の方の受け入れを断らないことで、ケアマネジャーからの信頼を得られている結果と思われる。

2. 事業報告

ア) 地域活動

<計画>

- ・ 地域活動に参加し、地域に密着した施設を目指す。

(結果)

- ・ 地域の夜間パトロールや清掃活動、一次救命処置講習、夏祭りに参加し、

地域の自治会やまちづくり協議会、市民センターとの関係構築が行えた。

【評価】

- ・地域活動への参加や講習会への参加により、地域との顔の見える関係づくりができており、地域に密着した施設を構築できている。

イ) 職員教育

<計画>

- ・指導教育のできる職員を増やし、職員の質を向上させる。
- ・苑外研修に参加し、知識スキルアップを図る。

(結果)

- ・看護部に関しては指導をまかせられる職員は増やすことはでき、医療面での看護師の質は向上できている。
- ・介護部に関しては指導をまかせることができる職員は現状まだ増えていない。
- ・苑内研修は計画的に行えた。
- ・苑外研修に関しては、参加はできたが参加指標がなかったため、キャリアパスという認識はない状況。
- ・喀痰吸引等研修へ職員7名参加。
喀痰吸引等研修に参加した職員は確実にスキルアップできていた。

【評価】

- ・指導教育については、役職の何名かにまかせている状況だが、役職ではない職員が今後指導教育をできるようになれば、役職へのステップアップという認識を持たせることでキャリアパスに繋げていく。
- ・苑外研修については、ただ参加させた状況だった。このレベルまでキャリアアップしたからこの研修に参加できるという指標の構築をしていく。

ウ) 継続可能な人事制度の構築

<計画>

- ・安心して仕事ができ仕事意欲をあげることができる。
- ・新職員の離職率を減らしていき、質の高い職員の確保を行う。

(結果)

- ・新職6名入職したが、4名退職。4名に関しては平均6ヶ月で退職。職員

人数が少なかったため、教育に時間をかけることができなかったことが要因と考えられる。4名とも経験者だったこともあり、仕事内容の考え方の違いも考えられる。

- ・新職以外の離職者は2名いたが、要因としては他の職種につきたいということだった。

【評価】

- ・職員が不足している状況で新規入職者というのは大事にしないといけない。新人職員教育システムを再度見直し、統一した指導方法、マニュアルの見直しを行う。